

パウダーレスインキ「キレイナ」の実力 (広告)

24. ライスインキと組合せた環境訴求 [サンエー印刷]

(株)サンエー印刷(岡村和哉社長,従業員160人,東京・東池袋)は、枚葉印刷・加工の小台工場が東京・足立区に、輪転工場が埼玉・美里町にある、出版印刷、商業印刷を得意とする。特に小台工場は環境に配慮した印刷に徹し、水なし印刷も行えば、早い段階からノンVOC(揮発性有機化合物)インキを採用した。また、近年脚光を浴び出したが、「ライスインキ¹⁾」を9年も前にメーカーと共に開発し、使用してきた印刷会社でもある。

そして、2016年よりパウダーレスインキ「キレイナ」を導入し、環境配慮をより推進している。

環境に配慮した多様なインキで対応

同社の使用インキを環境視点で大別すると、1. LED-UV、2. ライス、3. 水なし、4. パウダーレス、となるが、もちろん使い分けには目的がある。

納期対応や特殊用紙対応では瞬間硬化のLED-UV印刷が効果的。省エネに加え、かつノンVOCにも対応可能。環境意識の高い企業や組織(自治体や学習塾など)はノンVOCライスインキで対応。環境報告書や会社案内など企業の環境アピールには、バタフライマークを使用できる水なし印刷。そして、社内印刷環境改善意識の高まりから、パウダーレスインキ「キレイナ」を使用したパウダー削減に積極的に取り組んでいる。

効率向上に寄与

キレイナの使用を考え始めたのは、2015年のIGASで。メーカーのT&K TOKAはIGAS期間中に、キレイナを使用しているスリーライト(本

誌2015年7月号参照)で見学会を行い、サンエー印刷も参加した。実はその前から、10色機でのパウダー散布量が多く、対策を検討していた。まず、2016年初めに4色機(表裏2色可能)で水なし印刷用の「キレイナルポ」のテストを始めた。その結果は、思ったほど効果が出ず、採用には至らなかった。インキも改良が進み、今度は(水ありの)キレイナを4色機で試すことになり、2016年秋ごろから少しずつ印刷を始めた。使用回数を重ねるごとにパウダー散布量が減っていき、デリバリが白く汚れにくくなり、また清掃時間も短縮するなどのメリットを実感し、2017年に入り、この1台のみだが本格運用している。

特色も、オペレータが調色することがあるが、蛍光インキなど特殊なインキを除けばすべてキレイナで行っている。パウダーの削減量は従来の2分の1程度。それでもその効果に満足している。

「キレイナ」の効果はこれだけではない。絵柄によるが、両面を印刷するのに、これまで一晩置いていたものが当日に印刷できるようになり、油性印刷機でも納期対応が可能になったのは大きい。



キレイナを使用する4色機。仕事内容により水なし印刷の場合もある。今はパウダーレスでない水なしインキだが、近いうちに仕事によりキレイナの水なしタイプとキレイナのライスインキになる予定

パウダー噴霧を正確に

今さらだが、スプレーパウダーは最小限の量が紙面に均一に散布されることが望ましい。その散布量の加減は用紙銘柄や斤量、絵柄によって異なるが、時に正確でない場合もある。量の調整は印刷機のダイヤルで管理するし、その目盛の表現や散布量は機械メーカーによっても、機種によっても違う。パウダーもメーカーや用途によりタイプも粒径も異なる。湿気や清掃不足でノズルが目詰まりしているときもあるが、わからずに使っている場面もある。

同社ではパウダーが均一に散布されているか確認するため、今年から黒い紙を通して状態を確認するテストを始めた。

サンエー印刷では現在、2/2、4/0が可能な印刷機でキレイナを使っているが、表裏2色の場合は墨文字+1色のような印刷が多いので、キレイナであればほとんどパウダーを散布しない。ただ、4/0では従来の半分程度だがパウダーを散布する。後工程での滑りを考慮してのことだ。

枚葉オフセット印刷においてパウダーを完全にゼロにするには、今のところUV印刷しかないが、油性印刷のメリットも多く残っており、すべてはUV印刷にならない。そのなかでパウダーが、減らせるというインキは、大きな価値がある。

ライスとのかけ算

パウダーレスうんぬんと言うのは、印刷会社、印刷現場でのメリットは大きい。よほど印刷物が粉っぽくない限り消費者は関心がない。同社の営業が、キレイナのパウダーレス印刷の良さや、ノンVOCライスインキという環境印刷のメリットを同業の印刷会社や代理店、クライアントに提案していけるかが今後の課題でもある。

そして現場では、近々に水なし印刷は「キレイナルポ」に切り替わっていく予定であるが、ノンVOCライスインキの部分は従来インキが残る。顧客に対しより環境対応を訴求するために、同社はT&K TOKAにノンVOCライスインキのキレイナの開発を促している。

今はT&K TOKAと協力しながら、徐々にライス×パウダーレスを、さまざまな用紙でテストしている。本誌が出るころには、おそらく「ノンVOCライス×パウダーレス」インキの本格テストに入っているかもしれない。

これまで、2年間パウダーレスインキ「ベストワンキレイナ」のユーザーの声を取材、連載してきました。ご協力いただきました印刷会社様にあらためてお礼申し上げます。この皆様の声を開発に反映し、さらなるレベルアップをお約束いたします。(株式会社T&K TOKA)

革新的なパウダーレスインキ「ベストワンキレイナ」

BEST ONE
KIREINA®

2016年度グッドデザイン賞を受賞しました。

GOOD DESIGN AWARD 2016

T&K TOKA®

株式会社 T&K TOKA <http://www.tk-toka.co.jp>
TEL 049-258-1611(代表) 埼玉県入間郡三芳町竹間沢283-1 〒354-8577

1) インキにまだ多く廃棄される米ぬかから搾油した米ぬか油を配合。ほとんどを輸入に頼るほかの植物油と異なり地産地消でき輸送に掛かるCO₂を削減。同社が使用中のライスインキはノンVOC対応